

## 「ペトロ、中風の人をいやす」

2016年05月06日

使徒言行録9章32節～35節。ペトロは方々を巡り歩き、リダに住んでいる聖なる者たちのところへも下って行った。そしてそこで、中風で八年前から床についていたアイネアという人に会った。ペトロが、「アイネア、イエス・キリストがいやしてくださる。起きなさい。自分で床を整えなさい」と言うと、アイネアはすぐ起き上がった。リダとシャロンに住む人は皆アイネアを見て、主に立ち帰った。

エルサレム教会の使徒ペトロは方々を巡り歩き、諸教会を視察し、福音を宣べ伝えた。この巡回は、迫害に苦しむ信徒たちを支え励ますための使徒たちの重要な務めであった。エルサレムから西北西に40数km、ヤッファとエマオの中間に位置するリダという町にきた。この町の聖なる者たち、主イエスを信じる信徒たちを訪ね、中風で8年間床に伏していたアイネアに出会った。名前がアイネアというギリシア名であるので、ヘレニストの信徒であろう。リダはギリシア都市で、ヘレニストが多かったと思われる。ペトロは「アイネア、イエス・キリストがいやしてくださる。起きなさい。自分で床を整えなさい」と呼びかけた。すると、アイネアはすぐ起き上がった。ペトロの口を通し、主イエスによって癒された奇跡を見て、リダと近くのシャロンに住む人は主イエスを信じた。

使徒言行録の著者はペトロが癒しの奇跡を行ったと伝えているが、これはエルサレム教会を代表する権威は使徒ペトロにあることを著したものであろう。カトリック教会はペトロを初代教皇に据えている。福音書の記述からも、ペトロの初代教皇は当然と言える。

マルコ福音書2章は、主イエスによって中風の人<sup>1</sup>が癒された奇跡を伝えている。中風で寝た切りの人を床に乗せ、4人の友人が主イエスに癒してもらおうと運んできた。ところが、主イエスの周りには大勢の人々が押し寄せ、近づくことができない。彼らは屋根に上り、屋根に穴を開け、床ごと吊降ろした。他人の家の屋根を壊すという、とんでもないことをした訳である。中風の友人を癒してもらいたいと願う彼らの熱意が、この行動に駆り立てたのである。主イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に「子よ、あなたの罪は赦される」と言われた。この場に、主イエスの落ち度を探し、活動を止めさせようとしていた律法学者たちが来ていた。彼らは心の中で、罪の赦しは神にしかできないことで、イエスは神を冒瀆しているといぶかった。彼らの心を見抜かれた主イエスは「なぜ、そんな考えを心に抱くのか。中風の人に『あなたの罪は赦される』と言うのと、『起きて、床を担いで歩け』と言うのと、どちらが易しいか。人の子（主イエス）が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう」と言われ、中風の人に「わたしはあなたに言う。起き上がり、床を担いで家に帰りなさい」と宣言された。すると、彼は起き上がり、すぐに床を担いで、皆の見ている前を出て行った。人々は皆驚き、「このようなことは、今まで見たことがない」と言って、神を賛美した。

罪の赦しとは神と結び合うということである。神と結び合った者は自分の足で立って歩く。世の慣わしという「床」に乗せられ、無意味に、無方向に運ばれる人生から、自分の人生を主体的に、責任的に生きる者に変えられる。パウロは罪の赦しを「神に義とされる」と言っている。神に義とされるとは、私の生は神に根拠があるということである。私は私であっていい。私の人生を生きていいということである。このアイデンティティの確立が罪の赦し、自分の足で立って歩くということである。